



ー全国小学校英語活動実践研究大会京都大会報告4ー

第2日目、直山先生の講演の続きです。新しい外国語教育の全体像に関わる話です。簡潔にまとめたいと思います。

3. バックグラウンド・ベースに何があるか(今回の改訂の背景)

(1) 課題を捉える・・・「日本における外国語教育」という視点から

① 学年が上がるにつれて、学習意欲の「にぶり」が見られる。外国語は少し大きい。

② 校種間の接続がスムーズにいない部分が見られる。

③ 中学校・高校において、英語力が思ったほど付いていない・伸びていない。

(2) 解決のために・・・「小学校教育のよさ・小学生の柔軟な吸収力を生かす」という視点から(←この一文は相馬が付加)

① 小学校中学年からのスタートで、外国語学習への「動機づけ」を高める。

② 高学年教科化で、外国語学習としての土台を強化する。

⇒ 活動と教科の違い、共通点と相違点をはっきりさせよう。「活動」では「1レッスン内キープ」であったが、「教科」では「単元の後もキープ」となる。指導者は、意図的にキープする努力を、積み重ねる努力をしなければならない。

共通点は、「英語を使おうとする積極的な態度の育成」。相違点は、「総合的・系統的」になること。語彙や表現を「引き出したいときに引き出せるようにする」のが教科であり、その取り組みのために時数が増えるということ。「より残る・より定着する」取り組みが必要となっていく。

繰り返しになりますが、今回の改訂は、「日本の外国語教育全体を見据えた課題解決の中から、小学校教育において何をどれだけやるのが望ましいのか」という観点で行われたことを理解する必要があります。単に、「今まで週1だったから今度は週2」という安易な発想で変わっているわけではないということです。

2日目午後は分科会です。第1分科会「“Hi, friends!”や文部科学省作成補助教材等を活用した指導の工夫」に参加しました。京都市小学校英語活動研究会の取組として、京都市立洛央小学校と京都市立朱雀第八小学校の実践事例、ならびに大阪府高槻市立大冠小学校の実践事例が紹介されました。

1. 京都市小学校英語活動研究会の取組

新教材“In the Autumn Forest”を活用した中学年外国語活動の実践、補助教材ジングル“Countries”を活用した高学年外国語(英語)に向けた実践が紹介されました。

中学年外国語活動に向けては、やはり絵本教材の活用が一つポイントになると感じました。これに3ヒントクイズなどの現在5年生で行っているようなベーシックな活動をうまく組み合わせれば、効果的な単元・活動ができると思いました。

また、高学年教科化に向けては、補助教材ジングル(同じ・似た音の繰り返しでできた調子のよい詩句・歌)の活用で、主としてアルファベットの文字と音に関わる気付きを促したり、文字や音への興味・関心を高める活動が効果的になると思いました。フロアからの質問で分かったのですが、京都市においては今のところ、このような児童の「気付き」を学担が促していく活動が基本形であり、室蘭市で英語講師が先行的に実施している「フォニックスの直接的な指導」は行っていないということでした。

2. 大阪府高槻市立大冠小学校の取組

新教材“In the Autumn Forest”を活用した3年生外国語活動の実践紹介が主でした。単元計画を含む全5時間の略案もペーパーで配布されました。ここまで詳細なものはまだ見たことがなかったので、大変興味深く、また貴重なものとなりました。全5時間の「目標と主な活動」を一覧にして紹介します。特徴は、語彙や表現に慣れ親しむためのモジュールの時間を設けている点です。(15分3回分 = 1時間相当だと思われます。)

第1時	「あなたは○○?～動物の名前を英語で言ってみよう」『In the Autumn Forest』の読み聞かせ
2	「何の動物が当ててみよう～動物なりきりジェスチャー」『In the Autumn Forest』の読み聞かせ
モジュール	①動物の名前、体の部位、形状、(鳴き声) ②体の部位 ③「Are you ～?」クイズ ④形状「big, small, short, long」(福笑い)
3	「動物クイズのヒントを言ってみよう」『In the Autumn Forest』の読み聞かせ
4	「動物クイズを作ろう」『In the Autumn Forest』の読み聞かせ
5	「動物クイズをしよう」『In the Autumn Forest』の読み聞かせ

モジュールの特徴としてもう一点。大冠小では、年間35時間相当をモジュールとして実施、35回分は単元に関連した活動を行い、その他70回分はフォニックスを含む独自教材“DREAM”を使用しているとのことでした。

※DREAM～大阪府教育委員会とmpi.松香フォニックスが共同開発したプログラム。大阪府向けはDREAM。大阪府以外では、「小学校英語SWITCH ON!」として販売されている。

こうした先行事例も調査・研究しながら、様々な資料を先生方へ提供していきたいと思います。

4回にわたって駆け足で見てきた全小英研京都大会の報告は以上です。次年度の全小英研は札幌市です！(添付のパンフレット参照)